



68年運動：ドイツ・西ヨーロッパ・アメリカ [翻訳]

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2014-05-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大津, 俊雄, ペピン, ハンス・ヨアヒム メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24729/00005866

68 年 運 動 - ドイツ・西ヨーロッパ・アメリカ

Hans-Joachim Pepping (大阪府立大学)

大津 俊雄 (神戸国際大学) 共訳

以下の翻訳者は Ingrid Gilcher-Holthey 者、Die 68er Bewegung. Deutschland - Westeuropa - USA (München 2001) の翻訳の第 3 章の 72-80 ページを掲載する。

2. テト(旧正月)攻撃: 同時的な反抗

二つの外的様相によって社会運動は強化や加速を得ることが出来る。すなわちそれは「決定的出来事」(Bourdieu) ^{ブルデュー} であり、異質な活動家の認識を一致させる重要な出来事、日常生活からの決別や習慣との決別や「普通」の時間認識からの決別を呼び起こす出来事であり、それによって個人にもグループにも見解の強制を課する又は期待と要求を呼び起こすものである。1968 年当初のテト攻撃は、こうした「重要な出来事」であった。

1 月 29 日に始まったテト攻撃で、FNL と北ベトナムは南ベトナムへの最強の攻撃を始めた。それは大都市に集中した。サイゴンでは空港や大統領府、南ベトナムの参謀本部の首脳部と米国大使館が攻撃された。軍事的攻撃の潜在力よりも、攻撃の精神的結果が重要であった。つまり世界一強力な軍事力の中の一つに対する明白な反乱が成功をもたらした。米国において TV は報道の展望を変えた。なぜなら TV の報道は戦争犠牲者の多さ、南ベトナム政府の弱さ、米国の損害(死者と武器)の多量さを、視野に入れた。その損害は国民の心にジョンソン大統領の政権への信頼を疑わせた。政権は述べたように、戦争を 1967 年末までに短期勝利で終えようと思っていた。様々なアンケートは世論の転換を記録した。1967 年 2 月までに戦争賛成者の割合は 51% から 32% にまで下がった。その戦争の妥当性と信頼は壊れたように見えた。米国の敗戦は可能性の領域に入って来たように見えた。これは 2 月 17・18 日にベルリンで開いた国際ベトナム会議の背景である。

歴史は作られ得る: 11 個の学生グループと新左翼として多彩に分類できるグループが国際ベトナム会議に参加する。その会議はベトナム戦争に対する国内的抵抗のネットワークとして「反帝国主義的統一戦線」または反革命に対する「神聖同盟」を作ろうとする国際会議であった。演説者が第三世界の自由運動と FNL を支える必要性を強調する。ルディ・ド

ウチケが述べたように、もし米国帝国主義がベトナムで改革的な民族戦争を破壊できる事を、異議の余地なく明確に証明できるなら、ワシントンからウラジオストックまでの権力的な世界支配の長い時期が始まるであろう。それを防ぐには先進資本主義システム内の矛盾を顕在化する反権威主義的路線を加速化することが必要である。「啓発と運動化」それは国会外のラディカルな抵抗を創造するためのスローガンであった。この抵抗運動は社会のあらゆる身分の個人や組織およびグループを統一する必要がある。この運動はドイツ連邦共和国（西独）においても可能になるが、そのためにはインテリが「国民について」ではなく「国民と共に」話すことに成功し、幅広いアンダーグラウンド文学が継続的に生まれることが条件である。Fanonの言葉を再び借りて、「地平線に」くっきり顔を出す「新しい日」を懇願しながら、ドウチケは大衆の革命化のために「革命家の革命化」を宣言した。

その運動化のきっかけになったのは、会議の終わりの方で参加者を含んで起きた約15,000人のデモである。この巨大なデモによってインスピレーションを受けたTariq Aliは、その後数週間懸念に頑張っ、ロンドンにも同様のサインを置くために、3月7日に予定されたベトナム連帯キャンペーンの巨大な反対デモを呼びかけた。招待されたSDSの代表者は、ベルリンではしなかったことをロンドンで実行しようと彼を催促した。アリは断った。何故ならデモの国際化に関わらず、場所によって適当な戦略を決める事が出来るという国内デモの開催者の権利をアリは要求した。（註1）

ロンドンのデモの隊列がようやく構成された時、SDSの代表者はベトナム・キャンペーンの代表者の後2列目で行進した。NFLの旗が両側面を守るように行進した。デモの雰囲気は楽観主義が支配している。アリが自伝で言ったように、もしその日の参加者の話が録音されていたなら、圧倒的多数がただベトナムの勝利よりももっと欲しかったことを録音したであろう。「私は新しい世界が欲しかった。戦争がなくて労働者階級の抑圧と搾取のない世界が欲しかった。友情関係や国際主義が築かれた世界が欲しかった。もし第一世界の富がもし正しく利用されたら、第三世界の援助になりうるだろう。」「言い換えれば、社会の変更が可能に見えた。『本当の意味での』社会主義の建設も可能に見えた。」「丁度それであった」とアリが言ったように「ベトナムが我々に教えた」。

路上で戦う男：1968年3月17日のデモ参加者がアメリカ大使館の在るグロスベナー・スクエアに近付いて、警察部隊と正面衝突するのが見えたが、アリにはもう状況をコントロールすることが出来なかった。つまりデモ参加者は、彼が避けようと思っていた事を実行してしまった。彼らは広場を「占拠」した。「我々は多かった。警官は少なかった。」と彼は後で判断した。騎馬警官がやって来ると、力関係は変わる。デモ参加者はスクラムを組んで、受動的抵抗を始めた。それは騎馬によって包囲された。そして騎馬警官が無差別に殴打したことで、暴力的衝突にひっくり返った。この衝突の間パリから来たAlain

クリヴィーヌ Krivineが、デモ参加者の戦意に単純に驚いた。それとは別に「新左翼レビュー」の編集者はびっくり仰天した。彼は新左翼学生の知的な新方向付けのために、50年代末以降に重要な刺激を与えてきた。「これが我々の選挙区だ。分かる？」とPerry Andersonがあるデモ参加者に呼びかけた。衝突が2時間続いた後で、アリは広場からの撤退を指示した。この決定に失望したデモ参加者の一人は、自分の不満を「路上で戦う男」と名付けた詩歌に代えた。彼の名はMick Jaggerである。その歌詞はベルリンの国際ベトナム会議が試みた意味構築を伝える事からは遠く離れている。しかしある態度やある調和を象徴している。それらは新左翼支持グループの考えたガイドラインの知識がなくても、戦闘的抵抗に人を駆り立てるものである。

ヴァレ ジュリア Valle Giuliaにおける戦闘: ローマでも1968年3月1日にCitta大学の学生を排除した後、学生が木の枝、土の固まり、石、ピン、本を礮にしてValle Giuliaにある建築学部を征服した時に、警察との間で暴力的な紛争が起こった。どちらの側が暴力的対立を開始してきたか、議論が続いた。何故なら内務大臣は学生を告発したが、社会主義的議員は警察に罪を帰した。事実は、学生がバリケードの中に立てこもり、上の階から警官に家具を投げ始めた。そして警察は部隊を再編して、放水車、催涙ガス、刺激ガスを利用して学部の建物から学生を追放した。建物を占領した学生の一部は、行動の後で逮捕された。警官の小グループがデモ参加者によって包囲された。自分達の仲間を解放するために数名の警官がピストルを持って空へ数発撃った。何故なら包囲された警官の一人が武器を取られたからである。彼等の数発の警告は、狙い通りの効果をあげた。デモ参加者は警官たちを解放した。色々な学生にとって、恐怖感や怒り並びに「鉛の時代」の幕開けに発つ印象が残った。学生行動委員会は警察の動員を批判し、暴力のエスカレートが計画されていなかったし、好ましくなかったと説明し、暴力を使わない抵抗形態への再帰を学生に呼びかけた。しかし翌日メディアが数時間に亘る戦いを具体的に報道したことによって、その戦いは他の町における新しい行動を駆り立てた。暴力を使用した妥協のない行動が、運動の選択オプションとなった。それを選択すればイタリアの学生運動は大学内の運動から、議会外の対立に変化するはずであった。ロンドンと同様にローマでもイベントに音楽的記念碑が置かれた。Paolo Pietrangeliというシンガー・ライターは「Valle Giulia」という歌を作曲した。その歌詞は次の通りである。

彼らは警棒を取って殴り始めた
いつもと同じように
突然何か新しい事が起こった
我々はや逃げ去らない！

3月1日だ、私は覚えている
我々は約1,500人だった

そして警察が突撃してきて
我々学生は殴り返した
資本主義者の学校よ
くたばれ！

「我々は世界が欲しい、そして今すぐに欲しいのだ！」：1968年3月31日に引退したのはベトナム戦争を勝利で終えようと着任したLyndon B. Johnsonであった。彼は次の大統領任期を断った。何故なら彼は、自分が政治をするのに必要なアメリカ世間の支持を失った、と確信したからである。その上に自分の党—民主党—の列の中からEugene McCarthyと共に新しい挑戦者が登場してきたからである、それはすなわちRobert F. Kennedyである。もう既に2月中頃にはケネディーがアメリカのSDSの代表者であるトム・ヘイドンやStoughton Lyndとコンタクトを取った。この初顔合わせに続いて、ケネディーの私邸では3人が引き続いて何回も話し合った。その話の中心となったのはベトナム戦争であった。しかしケネディーは「市民参加の民主主義」というコンセプトにも触れた。ヘイドンはケネディーをアメリカのMendes Franceのような人物として見始める。メンデス・フランスの1954年ディエン・ビエン・フーでのフランス敗北後と同様に、ケネディーはベトナムでのアメリカ敗北後に、平和条約に関する交渉を開くであろうと、ヘイドンにとって見受けられるようになる。だがケネディーが新たに自分を方向付けようとした政治的文脈が、4日後には劇的に変わった。

非暴力のシンボル像であるMartin Luther Kingが暗殺された。全米の76のゲットーでは暴力的反乱が噴出した。この暴力のエスカレートを背景にして、SDS内の対立が鋭くなる。まずはコロンビア大学(NY)のSDSグループの中である。自らを「行動派」と称するあるグループが、全世界でニュースの大見出しとなる新しい挑戦状を出し抜けに出した。このグループは行動による運動化を重視していて、組織化を行動の前提と見なす「実践軸」の賛成者からは、自らを離して一線を画していた。1968年4月23日マーチン・ルーサー・キングに向けた大学の追悼会で、「運動派」の代表者であるMark Rudd20歳が学長の演説を中断させて、大学がハーレムの関心事を無視し続けたので、この追悼は偽善だと批判した。ハーレムの境界線と異論の余地のある大学体育館の建築プロジェクトが、エリート大学での占拠ストライキのきっかけとなった。その建築にはハーレムの住民や公の代表者が反対していた物である。しかも国防省の指示で武器関連研究を行なっているコロンビア大学の国防分析研究所とのコネクションがストのきっかけともなった。SDSとSNCCのメンバーは共同で始めて大学建物の占拠を実行した。占領された建物から白人の学生達が排除されることを黒人の同級生達は求めている。白い学生は学長事務室並びに数学科の占領にSDSグループを駆り立てている。トム・ヘイドンはスト勃発直後にキャンパスに来て、数学科の占領にも参加している。Abbie Hoffmanは大学の隣接地区からドロップアウトのグ

ループを連れて来た。全てのコースがボイコットされ、占領された建物が「解放区」として宣言され、バリケードで守られている。占領された教務課の窓には大文字で次の単語が誇示されていた。「我々は世界が欲しい、そして今すぐに欲しいのだ！」 この言葉はDoors^{ドアーズ}の「曲が終わった時に」からの一行である。ドアーズの曲と劇に類似点があるとTodd Gitlin^{トット ギットリン}が言うには、Peter Weiss^{ペーター ヴァイス}の劇「Jean Paul Marats^{ジャン ポール マラ}の追放と暗殺」（フランス革命時）のコーラスの解釈には、そのスローガンの意味に対応する部分がある。役者の目で見れば「参加民主主義」がコロンビア大学で実践されている。

「二つ三つ、沢山のベトナムを作ろう」というチェ・ゲバラのアピールに方向付けられていた SDS が「二つ三つ、沢山のコロンビア大学」を発生させようというスローガンを配った。ストをしている学生の中には、新しいグループが形成された。そのグループは新しいカリキュラムや自治行政機関について議論し、各活動の重点を大学の改善に置こうとしていた。「改善」という合言葉で、そのグループは SDS のラディカルな行動主義から距離を置く。もう一つの分派は大学に背を向けて、労働者又はゲッターの中で同盟者を探そうと決心した。そのグループが確信しているのは、「自由大学」を建設するためには、まず「自由社会」を建設することが前提となる。警察は7日後に大学の建物の占領を終えたが、抵抗は続く。コロンビア大学の学生達が自分のストで示したシグナルは全国に認識されている。ストや抵抗運動は、野火のごとくアメリカの大学に広がっていく。抵抗運動の新しい段階が始まった。バリケードとは、トム・ヘイドンが言うように、最早ロマンティックな過去に属す物ではなくて、むしろ「戦争を家に持ち帰る」という新しい始まりを象徴している物である。トム・ヘイドンは9歳年下の SDS メンバーのMark Rudd^{マーク ラッド}の攻撃性と決意性に驚いている。そしてトム・ヘイドンは SDS のアジテーターとしての役割とロバート・ケネディーへのシンパシーとの間で心が行き来して揺れている。トム・ヘイドンは益々將軍として見なされている。しかし彼自身が強調している様に、「参加民主主義」を教えるためにコロンビアにやって来たのではなくて、むしろ行動している人々に決定を任すという原則を持ってきたのだ。ロバート・ケネディーが選挙運動に協力するよう彼に頼んだ時、彼は断っている。しかし彼は1968年8月に計画された民主党大会の代表決定日の間に、反ベトナム戦争運動のデモを用意するということを約束していた。この運動はケネディーの広告に役立つと願っている。

フランスが退屈している: 世界中で学生が街頭に出る一方で、フランスは比較的静かである。3月15日に「Le Monde」紙のPierre Viansson-Ponte^{ル モンド ビエール ヴィアンサン-ポンテ}が言うように、フランス人は「退屈している。」ベトナム戦争が彼らを動かしている。しかし実は、心から深くは関わらない。2日後パリのベトナム戦争反対のデモの後でアメリカン・エクスプレス銀行支店の窓ガラスが壊れる。ナンテールの学生Xavier Langlade^{クサビエー ラングラード}が逮捕される。彼はAlain Krivine^{アラン クリヴィーヌ}が導くトロツキー・グループ JCR のメンバーである。彼の逮捕はナンテールにおけるアナーキスト、

トロツキスト、マオイストのグループの連帯を煽り立て、「3月22日運動」の設立に導いている。この運動は瞬く間にナンテールのキャンパスを変える。^{ダニエル コーン-ベンディット}Daniel Cohn-Benditが居るこの運動のメンバーに対するソルボンヌで開かれた1968年5月3日の懲戒手続きは、ナンテールキャンパスの出来事にソルボンヌが管轄しなければならなくなり、ナンテールの抵抗をパリの街中に移転してしまう。フランスの5月が始まった。

注1

ベルリンのデモは警察のルールに従った。SDSはロンドンのデモでは制限されたルールを違反しルールに傷をつけ、国家権力に挑戦するようアリをプッシュした。